



PLUS Furniture Company

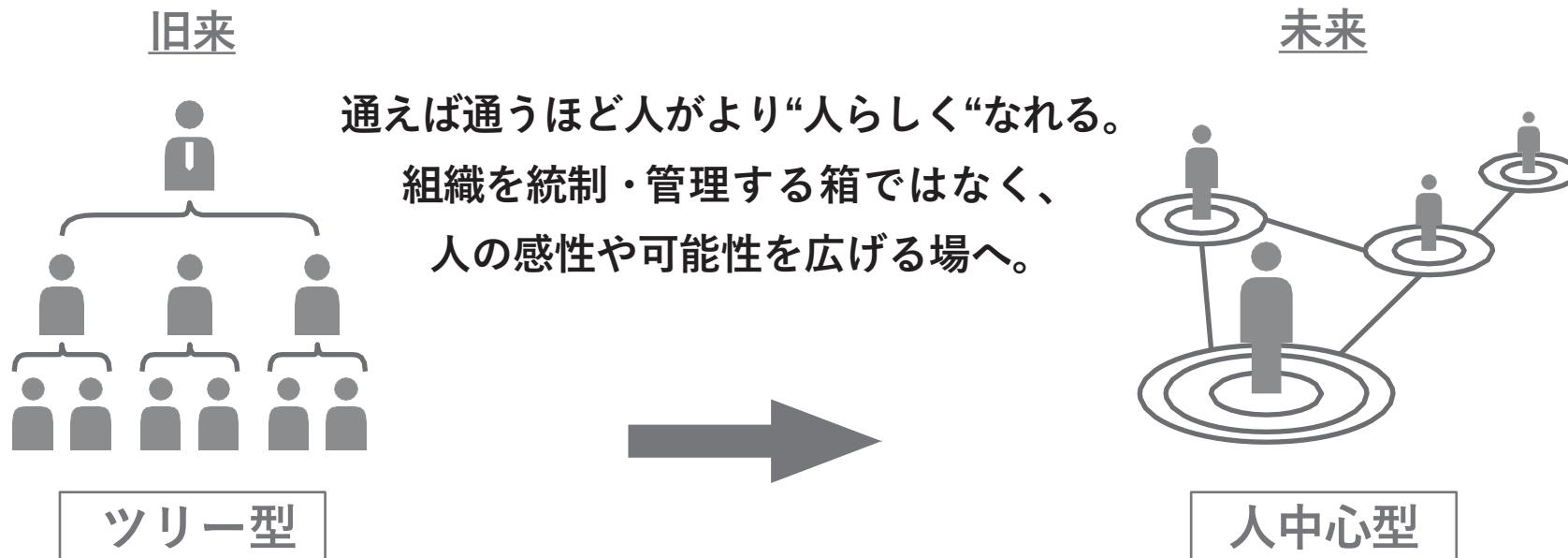
虎ノ門オフィスリニューアルプロジェクト
～プラスらしさと未来の働き方を見据えて～

本社・虎ノ門オフィスプロジェクト発動

2016年12月、プラスの本社・虎ノ門オフィスプロジェクトはスタートしました。
ユニークネスを追求するプラスらしい新たなオフィスを創造するために、まず考えたのは、
これからのワークスタイルはどう変化するか、未来のオフィスはどう在るべきかということです。
働き方が多様化している今、管理・監督を重視する「ツリー型」の組織から、
個人を尊重する「人中心型」へと変化しています。
これからのオフィスも、変化に合わせて進化しなければなりません。

これからのオフィスの
あるべき姿

【本社・虎ノ門オフィスリニューアルのコンセプト策定で考えたこと】



PLUSが考える未来の働きかた オフィスを「DEAI（出会い）」の場に

未来起点、自分起点でオフィスを変える

10年後を見据え、これからのワークスタイル・ワークプレイスはどう変化するのか。新オフィスのコンセプトを考えるにあたり、全社からメンバーを選抜したワークショップで考えました。

働く一人ひとりがチャレンジし、発想し、仲間とコラボレーションして価値を創造する場としてのオフィスの在り方も見つめ直しました。

そして浮かびあがったキーワードは、「^{デアイ}DEAI」。

ビジネスがどんなに変わっても、
テクノロジーがどんなに進化しても、人は出会いながら、働く。

^{デアイ}「DEAI」のなかに^{アイデア}「IDEA」がある。

私たちは、オフィスにおける「DEAI」を創出し、その質を高めることが、仕事や生活の質を高めることにつながると考えました。



出会いを誘発する
オフィス

5つの「DEAI」

「オフィスは何のためにあるのか」という問いに、PLUSはDEAIのためにあると答えます。

DEAIからIDEAが生まれ、PLUSらしい製品・サービスが生まれます。

「DEAI」は人と人、だけではありません。

- ・五感と出会う
- ・仲間と出会う
- ・志と出会う
- ・健康と出会う
- ・新しい自分と出会う

新しいオフィスのレイアウトプランは、この5つの「DEAI」をデザインの軸にしています。

本当に働きやすい環境を求めて

コンセプト「DEAI」+現場の声

まだ見ぬオフィスで働く自分の姿を想像してもらうことは、そう簡単ではありません。実際にそこで働く人に、自席スペースが小さくなること、アクティビティベース(※)の働きかたに変わることを、どう示すかという問題がありました。

そこで、オフィスプランニングを担当したデザイン部が、各部署に出向き、直接プレゼンテーションやヒアリングを実施しました。本当に働きやすい環境とはどんなものか、どういう働き方が現場の意に沿っているのか。新しいアクティビティベースの働き方のラフ絵を多数挙げて、そこで働く姿をイメージしてもらいました。デザインの押し売りにならないよう、現場の声に耳を寄せました。

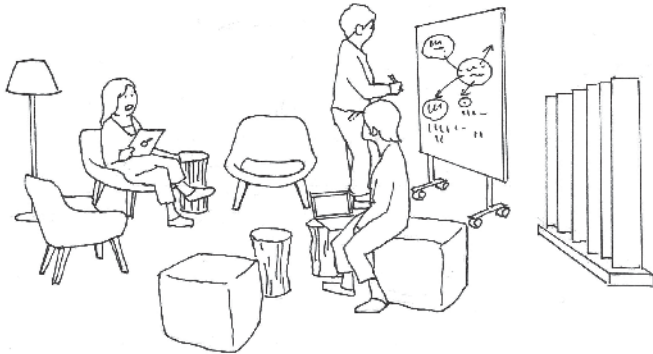
※アクティビティベースの働き方
自分の仕事の種類や内容に応じて自主的に働く場所を選ぶ働き方



現場の声をデザインに

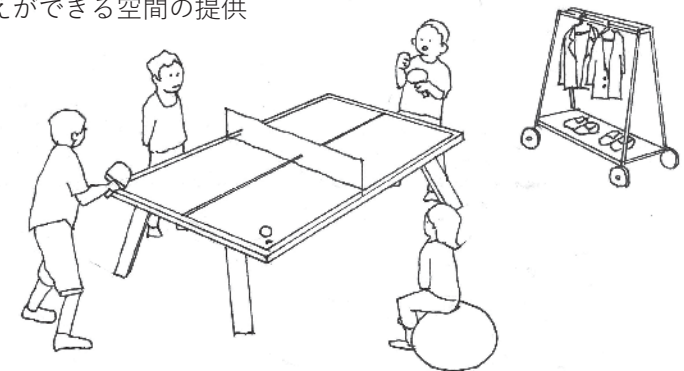
「会議室が不足している」

→自席の近くにサッと集まって話し合えるスペースを配置



「息抜きや気分転換できるスペースが少ない」

→気持ちの切り替えができる空間の提供



オフィス自体がカフェ

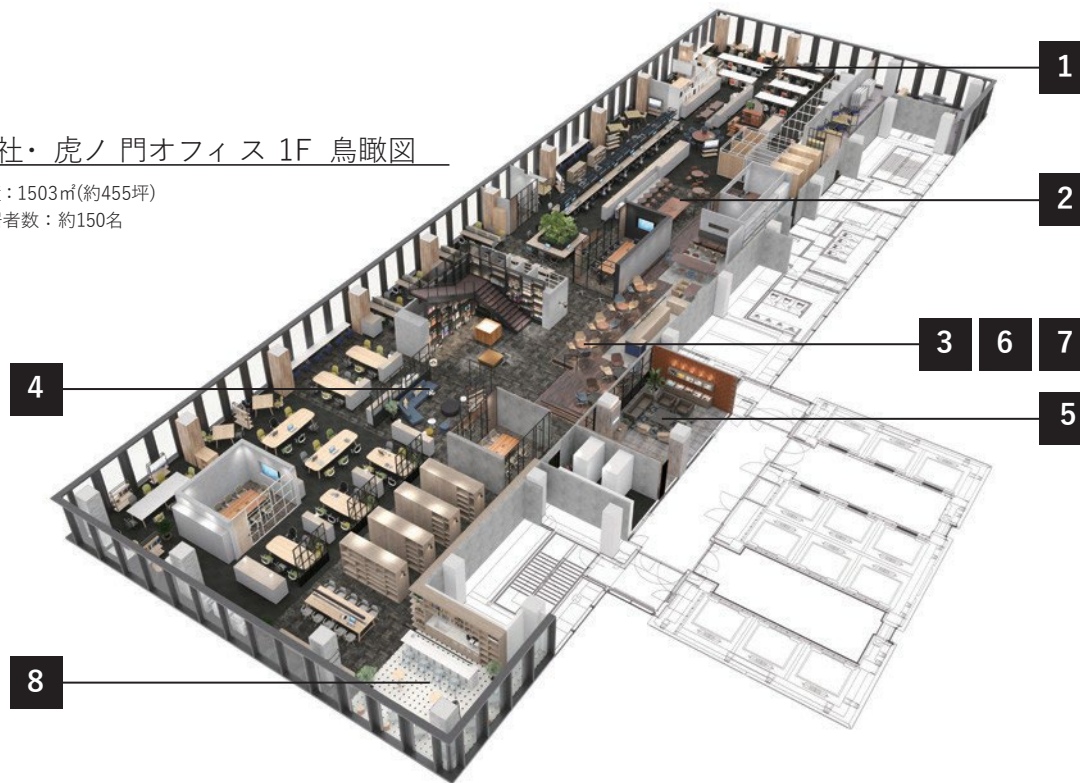
パソコンを持ち込めば、どこでも仕事ができる時代、オフィスの役割が変わってきています。オフィスからサードプレイス※へと向かう人の流れを、もう一度セカンドプレイスに呼び戻したい。それには、オフィスに居心地がよく、クリエイティビティが発揮できる場所が必要だと考えました。そこで、オフィスのカフェ化しようという発想が生まれたのです。

新オフィスでは、オフィス全体に「カフェモジュール」を採用しました。自席のスペースを小さくするかわりに、その周りに会議室やユーティリティなどさまざまなアクティビティを配置したことで、アクティビティベースの新しい働きかたが可能になりました。さらに、オフィス内を自由に歩き回することで、たくさんの「DEAI」とつながります。

※ ファーストプレイス = 家
セカンドプレイス = オフィス
サードプレイス = カフェやコワーキングスペースなど

本社・虎ノ門オフィス 1F 鳥瞰図

面積：1503㎡(約455坪)
入居者数：約150名



人の流れを変える カフェモジュール

カフェモジュールは、カフェや飲食店などの店舗で利用される設計手法です。オフィスモジュールと比較し、一人あたりの利用面積が少ないため、余剰空間を創出しやすくなります。



フロア全体の照明に、コミュニケーションに適した明かりを採用しています。カフェスペースは雰囲気のあるライティングに。オフィススペースでは、温白色（昼白色よりも黄色味がある）の蛍光灯を採用し、あたたかみのある照明計画にしています。



3

「DEAI」を 誘発する空間

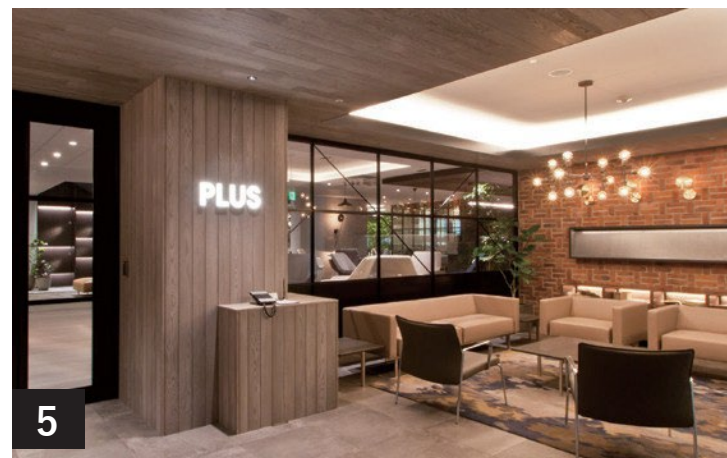


4

階段スペース

上下階をつなぐ階段は、「DEAI」のコンセプトの象徴。階段をただ行き来するのではなく、出会いを誘発する中心的な存在としてふさわしいデザインに。

未広がり意識して、階段を降りた先には、人が集まるスペース（カフェ、デジタルサイネージなど）が広がるようゾーニングしています。



5

1階のエントランススペースであるホワイエのインテリアが、新オフィスのコンセプトを具現化しています。

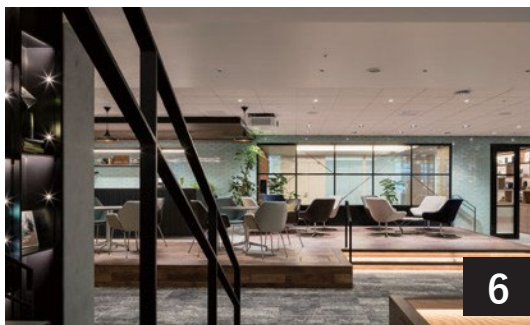
デザイナーのこだわり

ホワイエは、レンガ、グレイッシュな表層材、新開発のパターションなど、カフェのくつろぎ感が伝わる素材を採用しました。インテリアやディスプレイも細部までこだわっています。

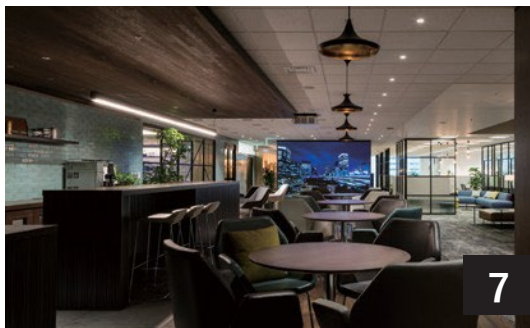


カフェラウンジ

オフィス中央にあるカフェラウンジは、床を32cm上げ、さらに天井を下げることで、隠れ家のような落ち着いた空間に。段差によって、気持ちのオンオフが自然に切り替わる工夫がされています。



カフェラウンジのバーカウンターは、イベント時にも活躍。ケータリングを囲んだり、向かいの壁を全面モニターにして、プレゼンテーションやデジタルサイネージを流したりと多目的に利用できます。



自然に気分転換できる空間を



【現場の声から】

「ひとりで集中したい」「ひとりでこもれる場所が必要」といった声から生まれたのが、集中スペース。全面ガラス張りで開放感がありながら、三方を壁に囲まれた空間に仕上げました。人の気配を感じながらも、仕事に集中できます。

5つの「DEAI」が
仕事の価値を高める

バーラウンジはライブラリーを併設。誰でも利用でき、ミーティングスペースとしても使用できます。夜はライトアップされ、東京タワーが見晴らせる魅力的なロケーション。



PLUS Furniture Company

<https://kagu.plus.co.jp/>

働き方のヒントを探すオフィス見学

プラス オフィス見学

